

22年度の硬貨製造、過去最少の6.2億枚 財務省

2022/7/15 20:32 | 日本経済新聞 電子版



10円玉の製造枚数は初めて1億枚を下回る

財務省は15日、2022年度に製造する硬貨の枚数が6億2907万枚（2034億1600万円）になる見込みだと発表した。キャッシュレス決済の進展や銀行での硬貨取り扱い減少などを受けて、年度当初の計画から2割強（1億8500万枚）引き下げた。財務省によると、比較可能な03年度以降では最少となる。

これまでは11年度の約8億枚が最少だった。03年度の約13億9000万枚が最も多かった。

計画を引き下げたのは100円玉と10円玉で、いずれも当初比で4割減らした。改定後の製造枚数は100円玉は2億枚、10円玉は6100万枚となる。10円玉の製造枚数が1億枚を下回るのは初めてとなる。

QRコード決済などのキャッシュレス決済の普及で、市中に出回る硬貨は減少傾向にある。[ゆうちょ銀行](#)は22年1月からATMで硬貨を入金する際に手数料をとり始めるなど、銀行も硬貨の管理

コストの削減に動いている。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.